



園芸作物栽培に関する

これからの対策と Q&A

今年には雪が極端に少なく、圃場の準備も早くから取りかかっていると思います。また、日中の気温は高く推移していますが、日最低の平均気温は平年より低くなっています。こうした年は遅霜の被害が出やすくなります。従って野菜苗が早くから店頭に並んでも買い込みは少し待ちましょう。ソラジが咲くころを植え付けの二芯の目安と

考えてください。それより早く植えつける場合は、トンネル被覆など保温対策をしなければなりません。

家庭菜園を巡回していますと基本的なことがおなじりになっている状況が見られます。気になる点としては

1. 圃場排水対策が不十分で、畝の高さも低い。
  2. 土が硬く、耕土が浅い。
  3. 密植し過ぎている。
  4. 面積の割に肥料の使用量が多い。
  5. 播種・定植の適期を外している。
- などがあげられます。この点を改善することで収穫物の品質・収量はかなり上がるはずです。



圃場排水を徹底する。

◎圃場作りにあたって

春は播種や植え付けに気が先走ってしまいがちですが、圃場作りをしっかり行うことが、その後の順調な生育を支えてくれます。ポイントとしては

- ① 圃場排水をできるだけ良くする。また、耕土が浅い圃場は2～3年1回はトラクターでの深耕かスコップでの耕起を行う。
- ② 近年土壌害虫が増えているので、土壌処理剤(ダイアジノン粒剤など)を施用してから畝を立てる。(登録内容を必ず確認してください。)

③ ウリ科のツル性野菜(スイカ・カボチャなど)は品目によりますが、本葉4～6枚で摘芯を行い、ツルの伸長を促します。(よく実が良くないと言われますが、摘芯がしていない場合もかなりあります。)



本葉4～6枚を残して摘芯

◎まだまだ蒔けます。5月の種まき

ホウレンソウ	ほぼ周年栽培可能ですが、時期に合った品種の選択が必要です。
ネギ	原則5月上旬まで、これ以降では年内収穫は難しくなる。
スイートコーン	基本的に5月中旬まで。これ以降では収穫までに干ばつ、台風など気象災害に遇いやすい。初期生育を良くする。開花期に2回の農業散布。マルチ栽培は効果が高い。
インゲンマメ	基本的に5月中旬まで。つるあり種は棚が必要だが、長期間収穫できる。
エダマメ	需要期に間に合わせるなら播種は原則5月中旬まで。窒素分を控える。本葉6枚程度で摘芯すると鞘数が多くなる。
ショウガ	5月上旬に植える。雨が降った後に水溜まりができるような畑では育たない。排水よく、やや湿潤で半日陰となるところがよい。サトイモの間に植えるのもよい。
ダイコン	多くの品種は3～4月撒きです。品種を選べば5月始めまで可能。
ニンジン	排水性の悪い畑では裂根が発生しやすい。年内収穫するには7月中旬までの播種となる。発芽まで時間がかかる。

◎イモ類の植え付け

サトイモ	植付けは5月上旬。お盆ごろまでに十分生育させないと収量が上がらない。肥料は「固形30号」を1a当たり25～30kgと「ようりん」を5kg混用します。植付けが浅かったり、土寄せが不足すると子ズイキの発生が多くなり品質が低下する。
サツマイモ	5月上旬～6月上旬までに植える。晴天日が続く場合は根がつくまで水やりを行う。肥料は「化成高度550」を1a当たり10kg程度の施用とします。近年コガネムシ幼虫の加害がひどくなってきているので、ダイアジノン粒剤などを土壌混和しておくとうい。

◎ジャガイモの管理  
茎すべり(第2回目の土寄せ)を行う時期です。追肥の必要性については生育を見て判断します。よくに茎すべりは大きめの芋が揃いやすくなります。

③ スイカ・カボチャなど地を這う作物は畝幅を充分に取る。(2.5～3m)

④ 堆肥など有機物を1a当たり200kg程度施用し、土を柔らかく保つ。ただし臭いがきつい物など完全していない堆肥はかえて生育を阻害するので3ヶ月以上畑で堆積してから使う。

⑤ マルチ栽培は生育促進効果が高いので、できるだけ敷設するよう努力する。

⑥ 元肥をやりすぎない。(化学肥料で1a当たり15kg程度、有機質肥料で30kg程度。生育は追肥で調整するほうがよい。)

◎植え付けにあたって

植え付け作業もその後の生育に大きな影響が出てきます。適切な対応とは

- ① 適地適作を心がける。
  - ② 出来るだけ連作は避ける。
  - ③ 近年害虫の発生が多くなっているのを、植え付け時に予防農薬(先月号を参照してください。)を同時施用しておく。
  - ④ 植え付けは温暖な日とし、水やりを冷たすぎる水は使用しない。
  - ⑤ 密植しない。
  - ⑥ 果菜類の苗は深植えしない。
  - ⑦ 春は風が強いので、定植後添え木か風除けを行い株の安定を図る。
- ◎ 植え付け後の管理  
初期生育をスムーズにすることが良い収穫につながります。ポイントは  
① ツルものは、敷きワラを早めに行い株の安定を図る。(ただし、強風でワラ每ひっくりかえされないようワラを縄などで押さえておく。)  
② 追肥は一時に多くやらない。少量ずつマメに行う。



強風に備えて添え木をする。

過繁茂による病害回避の効果もあるので手が抜けません。生育の良い株で2～3本、生育がやや劣る株は1～2本にします。作業が遅れると悪い切りが悪くなるので早めに行いましょう。  
土寄せは緑化イモが発生しないようにするためです。しっかりと行うとよい。

◎タマネギの手入れについて

2回目の追肥は4月中旬に必ず終えなければいけません。また、サビ病やべと病が出やすい時期となつて来ますので予防としてジマンタイセン水和剤に展着剤を加用して散布しておきましょう。近年ネギアザミウマやハモグリバエの発生も目立ってきております。加害が始まったラジエイエース水溶剤(収穫21日前まで)などで初期防除に心がけましょう。  
なお、今年にはネギ坊主が立つてくる可能性が高くなっています。こうしたタマネギは早めに収穫し食しましょう。立ってきたトウを早めに摘み取ることは、しない場合に比べて幾分か玉の肥大を促進する可能性はありますが、タマネギの中心部分は固くなってしまうことは避けられませぬ。



タマネギのトウ立ち

☆ナスの整枝について

毎年、ナスについて整枝の質問があります。ナスの一番花が咲き始めたところに主枝と、花が付いている付近の脇枝2～3本を残して他の脇枝は摘除します。主枝とこうして残した枝の計3～4本はそのまま伸ばしていきます。伸ばした枝から出る脇枝はナスを1～2個収穫したら切り戻します。以降この繰り返しとなります。切り戻し剪定は7月中には終えるようにします。



剪定前 → 剪定後

大門 優  
園芸アドバイザー  
お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ  
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。